

来たれ
研修医!

山陰労災病院

鳥取県米子市皆生新田にある山陰労災病院は
1963年に山陰地方の勤労者医療を担う施設として誕生した。

卒後臨床研修必修化の年である2004年には、
同時に独立行政法人化という一大転機を迎えたが、
臨床研修必修化は「手づくり」のプログラムで、
独立行政法人化はスタッフが一丸となった医療への取り組みで、
それぞれ見事に乗り切り、現在にいたっている。



厳しい職場ですが、
学びたいと考える人には
必ず何かを持って帰ってもらえる
自信があります。

副院長(耳鼻咽喉科)

杉原 三郎氏

2003年より、まったく何も
ない状態からつくり上げたの
が現在の初期研修プログラム
なのです。

他院の既存プログラムを移
植する方法もあったのでし
うが、当院は、手間を惜しまず
オリジナルなものをつくるこ
とにこだわりました。

の機運が生まれたのを、今でもよく憶
えています。

現在は、各病院それぞれが他院と協
力関係を築いており、当院は小児科と
婦人科の研修を米子医療センターと博
愛病院にお願いしています。また、鳥
取大学医学部とは、たすきがけの研修
をする関係にあります。鳥取大学の初
期研修医が、希望すれば一定期間の研
修を当院で行えるようになっており、
今年度は1年次研修医を1年の期間で
4人、2年次研修医を3〜9カ月の期
間で5人受け入れました。

Q 貴院の卒後研修には、どのような
特徴がありますか。

いろいろな捉え方があるでしょうが
私としてはまず、ゼロから手づくりし
た研修プログラムである点を、特徴と
して挙げたいですね。2004年に臨
床研修が必修化されるまで、当院には
研修プログラムなど、いっさいありま
せんでした(笑)。制度導入が迫った

Q ご苦労も多かったでしょう。

たとえば、スーパーローテーション
と言われても、当院には産婦人科や小
児科がありません。ただ、そこで他院
に協力を仰ぐと周囲を見渡してみる
と、米子医療圏内の他院も同様の課題
を抱えている事実がわかりました。臨
床研修必修化を機に、それまでライバ
ルでしかなかった病院間に一気に協力

Q ほかに研修に関して特徴があ
れば教えてください。

なんと言っても、2年間、初期研修
医に宿直をさせない点でしょう。全国
的にも、きわめて特徴的な方針だと思

います。新人医師にとって宿直は恐怖そのもの。私にも経験がありますが、いかに上級医がいようと、恐怖に近い不安はぬぐえません。それが原因で健康を損なう者も明らかにいます。初期研修医の宿直は、確かに病院の人手不足対策には寄与しますが、医師養成にも、患者にとってもプラスとは言えないのではないのでしょうか。当院では、救急患者の対応は、日中の当直勤務で十分に学べると判断しました。

Q プログラム上で何か工夫されている点がありますか？

初期研修では2年目の最後の1ヵ月を「まとめの月」として空けておき、研修内容を振り返って、経験しなければならなかった点が見つかれば、補う

ために使うようにしています。また、2年目は1年目よりフリーに、つまり、より希望する科を多くまわれるようにとの配慮から、厚生労働省のモデルプログラムでは2年目に入っている地域医療を1年目の最終月にまわし、2年目のスケジュールに余裕を持たせています。

Q 鳥取大学医学部から、初期研修医4人を受け入れていると聞きました。貴院の研修に魅力がなければ、4人もの研修医が選択はないと思います。

どうやら、コモンディーズな症例を多数経験できる点と魅力と感じられているようです。昨年度は、予想以上の人数の医師が当院での研修を選択してくれ、デスクが足りなくなったほどです(笑)。当院では研修修了時にアンケートをとっているのですが、毎年、「屋根瓦ではなく、現在最高レベルの医師から、直接学べたところが有意義であった」との感想が多く返ってきます。当院では、大学であれば教授クラスの實力者が臨床の現場でばりばり働いていますし、各科の指導医も兼ねています。

自慢ではありませんが、各科で屋根瓦をつくるほどスタッフ数がいま

から(笑)、ローテートでまわる研修医は、行った先の科で教授クラスの医師に直接、1対1、場合によっては1対2で——2が指導医ですよ(笑)、みっちり教えてもらえます。そのうえ、繰り返しになりますが、大学病院にくらべて症例数は圧倒的ですから、心から学びたいと考えている研修医には魅力的でしょう。

Q 研修医の処遇、待遇については。

当院は半分公立とも言える経営体制のため、なかなか研修医の給与アップについては市中病院のように迅速には手続きが進みませんでした。しかし、ようやく今年度、研修医に対する給与アップの申請が通りました。結果、鳥取県内では、初期研修医は市中病院並みになり、後期研修医の給与はトップになりました。

Q 先生の「手づくり」は、これからもつづくのでしょうか。

研修責任者の役目を解かれるまではつづくでしょうし、つづけたいと思っています。

現在も多くの研修病院が持っている各科の基礎の基礎をまとめた研修手帳の作成を構想しているところ。知人を

通じていくつか他院のものを入手し、当院の手帳はどんなものであるべきかを思案しています。2年後には、完成させる計画です。

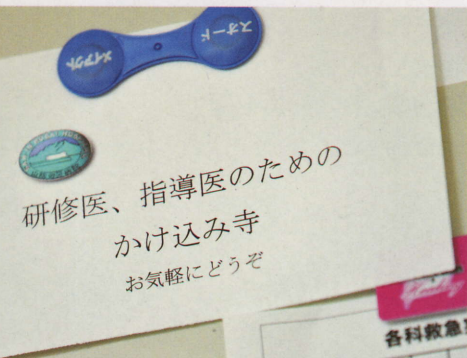
Q 「手づくり」は苦労の連続だと思えます。労を惜みず継続できている要因は？

教える側、教わる側、双方から喜ぶ顔や声が伝わってくるからでしょう。思えば、辛いことがあっても「ありがたい」との一言で救われるのは、医師の仕事に通じていますね。

Q どんな研修医にきてほしいとお考えですか？

研修期間の過ごし方は、それぞれの人生設計に沿ってさまざまあると思います。薬をして研修期間を終えたいと思う方には、それなりに薬ができる研修場所もあるでしょう。ですが、当院での研修を選ばなら、決して薬などではないと覚悟してきてください。

厳しい職場です。しかし、真に学びたい人には、必ず何かを持って帰ってもらえる自信があります。やる気さえあれば、必ず力をつけられますし、やる気のない人には決して務まらない病院だと申し上げておきたいです。



杉原氏の部屋のドアには「研修医、指導医のためのかけ込み寺」の文字が